

とよ.たち美肌通信

2月号 vol.67



まきの はな  
6才



# 今月号の表紙



2月号の表紙は、



元気なおにさんが節分を

楽しんでいる絵です!!



たくさん豆もとんでますね”

たいそうする事が趣味で、特に



なわとび・てっぼうが得意な”そうです

ピア)をひくことが好きで、

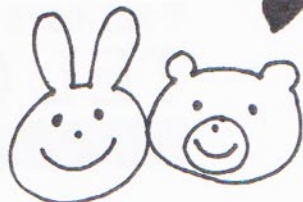


お料理とままのお手伝いが得意な

かわいい女の子が描いてくぐさしました

院長はじめ、スタッフ一同

びより感謝いたします



「ある原因によって引き起こされる結果がある時、その原因と結果を結ぶ条件や事情のこと」、これって何だと思いませんか。複数の国語辞典を開いて『縁』という単語を私なりに調べて理解した文です。実は英語には『縁』に相当する単語がないそうです。日本独特の単語だなんてびっくりですね。欧米の考えに、「良い原因があれば良い結果を生み、悪い原因があれば悪い結果を生む」という思想があります。これに当てはめてみると、日本語の縁とは原因と結果を結ぶものであると考えられます。私の親戚のアメリカ人を思い返しても彼等の考えは比較的、原因と結果は一対一対応である様で原因が良ければ「良い結果に、そうでなければ「悪い結果に在る」という風に考えている様な気がします。その為彼等は原因が悪い時は、可能な限りそれを排除しようとする傾向がある様に感じます。一方、日本人の考えは異なり例え悪い原因があつたにせよ、良縁によつて良い結果に転じることもあると考えられる所に、我が国の良さがある様に思えます。だからこそ私達は昔から良縁に恵まれたいと原うのではないのでしょうか。

これ以外にも欧米人が理解し難い言葉はいくつ  
がある様ですが、『一期一会』もその一つです。

二度と会えないかも知れないという覚悟を持って、  
目の前の相手に尽くすこと。という意味ですが  
欧米人の考え方は、「毎日会う相手に心を尽くすのは  
理解できるか、二度と会わない相手にそれ程心を  
尽くさなくても良いのでは？」と思う様です。

日本人と欧米人との『一期一会』に関するエピソードが  
あります。私も過去にテレビで観たことがありますので、  
ご存知の方も多いかも知れませぬ。

時は明治時代。トルコの軍艦エルトルル号が日  
本からの帰途、紀伊半島の沖で座礁した。多くの乗組  
員が命を落とした中、69名のトルコ人が和歌山県の漁師  
等によって助けられた。この69名がトルコに帰る際、  
「子孫末代まで、この御恩を語り継ぎます」と言っ  
て本当にこれを伝えていたということです。時は流れ  
1995年イランイラク戦争が勃発、この時イランに多くの船  
が取り残されてしまいました。そんな中イラクのフセイン大  
統領は48時間後、イラン上空を飛行する機は全て  
撃ち落とすという声明を出したのです。それを知ったイラン  
の日本大使が友人であったトルコ大使に助けを求めた

ところ、トルコ政府はイラン領空を飛行していたトルコ航空のパイロットと連絡をとり日本人救助要請をした結果、複数のパイロットがその危険なフライトを自ら志願したのです。そのうちの2機が200数十名の日本人を乗せてイランを脱出しトルコ領空に入ったのがタイムリット寸前だったということです。しかもイラン国内にはまだトルコ人も残っていたというのに日本人を優先して救助してくれたのです。且けられた日本人はなぜ危険を顧みず助けくれたのかと質問しました。すると、その時声を揃えて彼等が言ったのが「エルムル-ルル早の恩返しています」と。更にその後トルコ大地震の時に日本政府は大かかりな人道支援を行ったのですが、それはイランから救助された日本人が日本政府に支援を働きかけたことで実現したものです。

これは私達日本人の一期一会が成した100年以上にわたる日本とトルコの絆以外の何ものでもありません。

私は最近ある本で「恩」という言葉を教えて頂きました。

これは「感謝」に勝るものだと思います。

少しずつ年をとって「感謝する」という言葉は理解できる様になりましたが、更に年を重ねていく中で「恩を知る」ということを意識していこうと思います。

院長・拝